

夜空で星座を勉強しよう 1

春の星座を見つけてみよう

春の星は、全体的に明るい星が少ないのが特徴ですが、そのためかえって大きな星座が目につきます。まず北の方角を見ると、ひしゃく型に並んだおおぐま座、北極星をもつこぐま座があります。おおぐま座のひしゃくの先を下の方にのばすと、しし座のレグルスが見えます。しし座の前にはかに座、後ろにはおとめ座のスピカが見えるはずです。そして、この3星座の南には、星座のなかでもいちばんの大きさをほこるうみへび座が泳いでいます。また、この季節は*「春の大三角形」や*「春の大曲線」などもあらわれ、星座を見つけるときの目印になっています。

春の大曲線

北斗七星のひしゃくの柄のカーブをそのままのばしていけば、うしかい座のアルクトゥルスにあたります。オレンジ色の

たいへん明るい星です。さらにのばしていくと白っぽく光るおとめ座のスピカへとつながります。この北斗七星からアルクトゥルス、スピカまでののばした曲線を「春の大曲線」といいます。

春の大三角形

アルクトゥルスとスピカで大きな三角形を作る星をさがしてみしましょう。これがしし座のデネボウで、この三角形を「春の大三角形」といいます。

上の図は

3月 5日の午前1時	3月20日の午前0時ごろ
4月 5日の午後11時	4月20日の午後10時ごろ
5月 5日の午後 9時	5月20日の午後 8時ごろ

南の空を見上げたときに見える星空です。

